

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4271300362		
法人名	社会福祉法人 森の里福祉会		
事業所名	グループホーム コーヒーの家・紅茶の家		
所在地	〒854-0205 長崎県諫早市森山町杉谷2898番地1 (電 話) 0957-36-1670		
評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年12月6日	評価確定日	平成20年3月21日

【情報提供票より】(19年11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 11月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 10 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	14.8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造ストレート葺平屋建 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	5 名	要介護4	6 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.6 歳	最低 80 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	愛野記念病院 ・ 畑中歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住み慣れた地域で、馴染みながらグループホームでの生活へ自然な移行ができればとの代表者の思いから設立された当ホームは、静かな環境ながら、玄関前は小学生の通学路であり、隣接して通所介護施設もあることから地域住民とのふれあいがある。又、商業施設や図書館等の公共施設も、車であまり遠くない距離なので、支援を受けながら外出、買い物を楽しめる立地でもある。スタッフ全員が、利用者にとっては、子供であり孫であるとの思いで支援し、祖父母と暮らす豊かな温かい大家族としての生活を念頭に、日々を共に過ごしている。又、田園風景の中で、当ホームの美しいクリスマスイルミネーションが、近隣の方の目も楽しませている。ホームの名称に込められた、ゆったりとほっとできるひと時を送れるようにとの思い、そして年を重ねても美しくロマンティックな事を生活の中で忘れずにとの思いを随所で細やかに感じ取れるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価後は改善計画シートを職員全員でミーティングの上、作成・活用し、理念の明示や利用者本位の介護計画の見直し、ケア会議の充実や内・外部の研修の受講等、積極的に改善に取り組まれている。今後は、改善項目の分析や実行状況の記述へのさらなる取り組みに期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は主に管理者・計画作成担当者による評価で、職員の積極的な取り組みはなかった。スタッフ全員が評価項目を検討する事で日々のケアの振り返りや、意識向上ができること等、評価の意義を理解し全員で取り組まれる事が望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	現在は1年に1回の開催であるが、2ヶ月に1回を目標として定期的な開催を予定されている。評価を受けて改善への取り組みの報告といったモニターとしての役割や、更なる地域との交流促進等、会議の意義を理解し活用して行かれることが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会は多く、その都度職員より近況報告、変化時の連絡等は密に行われている。要望に関しても、その折に計画作成担当者又は状況に応じては管理者が直接対応するようにしている。行事に参加される家族も比較的多いので、このような機会での交流を家族会としている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	デイサービス施設があるので地域の方との馴染みの関係の継続がある。職員も地元在住者がいる為、地域の行事への積極的な参加や消防団との連携などの支援が得やすい。これからは事業所が持つ様々なノウハウを地域に還元していく機会を広げていける事で、双方向的支援の関係を築いていける事に期待したい。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念である「利用者様の立場にたち、納得して頂ける良質なサービスを提供します。福祉を通じて、地域の皆様の安心・信頼・満足のゆく健康で豊かな生活を支援します。」をもとに、地域住民との交流に支えられながら、代表者ならびに職員は利用者に対して、家族としての気持ちを持って日々のサービスの提供に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の支援にあたって「私はあなたの子供です。孫です。…」という理念を掲げ、地域の中で大家族のように日々を共に送っている。その文言は事業所内の目に付きやすい所へ掲示され、職員は常に出勤時・ミーティング時には確認し、念頭においてのケアに心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地区での行事、町をあげての祭りにも楽しく参加している。近隣の中学校の職場体験の受け入れや、小学校の通学路沿いという事で子供110番の家の旗を掲げるなど、交流と共に貢献も図られている。事業所内で料理教室を開かれたりと受身の体制ではなく、積極的な取り組みがなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価後は、改善計画シートを作成され、そのもとに前向きな取り組みがなされている。今回の自己評価は、主に計画作成担当者を中心に行った。項目等の変更に関して、職員に特に説明はなされず積極的に評価に関わることはできていない。	○	評価を日々のケアの振り返り・見直しの機会と捉え、職員全員が取り組む事により、統一した意識のもとでの、サービスの質の向上がさらに望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に1回、利用者・家族・民生委員・市職員・事業所職員の参加で開催されている。施設報告等がなされているが、十分な討議をされるまでには至っていない。	○	今後は定期的な開催の実施を計画されているという事で、おおむね2ヶ月に1回を目標に取り組んでいかれる事に期待したい。議題に応じて構成メンバーを検討したり、開催可能な状況を設定し、外部評価と並行しての会議の活用が望まれる。

グループホーム コーヒーの家・紅茶の家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の相談は随時、保健課等に行っている。計画作成担当者が地域出身・在住という事もあり、知己の仲の役場職員もおられ、今後も情報共有に努め、信頼関係をより深め、質の向上の取り組みが期待できる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2週間に1回ないし1ヶ月に1回は、面会時に口頭で伝えており、面会がない場合、必要時には随時電話で伝えている。ホーム便りも2ヶ月に1回発行し郵送している。金銭管理も家族にきちんと報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、家族の面会は多い。行事への参加も、常に半数以上ある。そういった機会ある毎に、要望等は管理者・計画作成担当者が直接聞き取り、早急に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内施設間、ユニットでの異動はなく、現在は離職者も少なく、職員間の協調と共に利用者へも安定した馴染みの関係によるケアが出来ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時、外部研修には参加している。研修報告はスタッフ会議にて行われ、資料も閲覧できるようきちんとまとめられている。スタッフ会議は内部研修の場ともなっており、看護師である計画作成担当者による、毎回テーマに沿っての医療・ケアに関する勉強会は充実していて職員のサービスの質の向上が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	計画作成担当者を中心に地域の他事業所との情報交換、事業所全体として行事参加による交流を行っている。今後もネットワーク作り、相互訪問の検討をしていく方針である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人内のデイサービス施設からの移行のケースもあり、体験入居(必要であれば家族同伴可)、職員による自宅訪問を行いスムーズなサービス利用になるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のこれまでの様々な職歴・趣味などから経験・知識を学ぶ機会も多い。家族のように親しみのこもったふれあいの中に、学ぶ機会があることで敬意や感動を覚える事がある。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人や家族の協力による、個人記録表での生活歴の把握やアセスメントに加え、日々のコミュニケーションの中から思いや意向を捉えるように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者、計画作成担当者、職員による担当者会議において計画作成し、家族からも介護計画についての意見を求め、関係者が一体となったよりよい計画の作成に努めている。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の記録を基に、モニタリングを2ヶ月毎に行い、担当者会議を開催しその人に沿った計画の見直しを実施している。又、状態の変化に応じた見直しを適宜に行っている。		

グループホーム コーヒーの家・紅茶の家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診支援の他、デイサービスの利用・医療連携・体験入居・家族が来所時の宿泊施設としてアパートを貸す等、柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診支援は、計画作成担当者(看護師)が付き添い、医師に情報提供を行い連携する事で、スムーズな診療への適切な支援が行われている。家族へも随時電話で報告しており、訪問診療もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算をとっているため、重度化や終末期に向けた意思確認については本人、家族の同意は得ている。まだ看取りはないが、個別の利用者に対しての急変時の対応について、主治医との連携と計画作成担当者(看護師)による適切な指示、マニュアルの提示により家族はもとより職員の不安も和らげられている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録書類は事務室にて、きちんと管理されている。利用者に対しては、排泄パターンの決まっている利用者のトイレへの誘導の工夫など対応に配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションに関しては、全員に声かけをして参加を促すようにはしているが、本人の希望を尊重し、その日の状況をみて判断し支援している。		

グループホーム コーヒーの家・紅茶の家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割を持った利用者が調理準備の段階から積極的に携わっている。職員も共に和やかに食事を摂る事ができており、その中でも、皆同じテーブルに着くことを必ずしも強いる事なく、広い食堂の壁際のソファ、リビングの窓辺等の好きな場所で食事をされる利用者もあられる。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿って回数と曜日、時間を決めている。居室にホワイトボードを活用し、入浴日を知らせ、入浴を拒まれる時も、清潔保持を配慮して週に2回は入浴して頂くよう支援している。デイサービス施設の大浴場での入浴希望にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編み物・裁縫・園芸・炊事・読書・文芸など趣味・特技を持たれた利用者が、その能力を発揮し役割を持つことで豊かな時間を過ごせるような支援がなされている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣のデイサービス施設へ気軽に訪問、行き来したり、ドライブも兼ねた買い物、外食や墓参り等希望に沿っての支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家庭的な雰囲気と地域に開放されたホームへの実践の為、日中は鍵は掛けていない。玄関のセンサーや、職員は外出を見落とさないように声掛けで連携を取り、自由な生活を支援している。又、行方不明者マニュアルを作成している。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施、うち1回は地元消防団協力のもとに行っている。消防団とは避難誘導の際の居室情報を知らせるため事業所内見取り図を提出するなどの連携も密にされている。又、夜勤専任の職員へは夜間想定での訓練を行っている。		

グループホーム コーヒーの家・紅茶の家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成は職員で行っているが、利用者の健康状態によって主治医と連携をとり家族、本人と話し合いながらという配慮もされている。水分摂取は一日最低1000ccとし、夕食後には希望される利用者には水またはお茶を500ccさしあげている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は全体に清掃が行き届き、換気もよく快適な環境作りに心配りがなされてある。リビングの壁際や広い窓辺に置かれたソファや籐椅子がくつろげる「独り居」の空間となっており、季節感が十分に感じられるしつらえ、利用者の手編みによる色鮮やかな椅子カバー、室内外の鉢植えの花々等、事業所の温かな個性が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気、日当たりもよく清潔で快適な空間である。壁の小さなホワイトボードには職員からの伝言を利用者に応じた書き方で書いてあるという細やかな心配りもある。ベッド・作りつけの棚・カーテンで仕切られたクローゼット・洗面台等、事業所で用意された機能的な設備の中に、持ち込みのテレビや趣味の小物があったり、個々で使い勝手のいい工夫が見られる。	○	備え付け、用意された家具の多い空間だけに、その人らしい居心地のよさをあまり感じられない。共有部分同様に居室にも季節感のある飾りつけ(クリスマス)や活けられた花があったが、利用者本人の希望を伺ったの支援かの振り返りが望まれる。